36. 「物、事、考え」を伝える、やさしい日本語がツールとなる

“日本人は、はっきりしすぎた言い方、断定的な言い方を避けようとする傾向が非常に強い。たぶん、ほかにも可能性があることを無視して自分の意見を読者に押し付けるのは図々しいという遠慮深い考え方のためだろう。実務の障害の一例は会議の席での曖昧発言（裁量の余地を残しておくとか）である。すくなくとも会議の席では自分の考えを明確に主張する習慣を確立すること”

ソフトを作るのに「プログラム言語」があるように、テレワークを円滑に動かすには　分かりやすい言語（TWOSL（*））が必要である。それは誤解がなく相手へ、自分の考えを正確に伝えるための「やさしい日本語」である。自分の考えを相手に誤解なく正確に伝える時に、「やさしい日本語」を強く意識することで、コミュニュケーションが上手くとれるようになる。（*）発明くんが「テレワークオペレーションシステムランゲージ」を勝手に省略しただけである。

正確であるということは、誰が、どこで、いつ、なにを、どのように、なぜ、どうしたと　いう　5W1H の要素を明確に述べることにある。明確であるということは、聞く人、読む人の頭の中に、なるほどそうか！と抵抗なく　収まることを意味する。なるほど！と思わせるには、伝えたい内容が論理的（ロジカル）　に展開されていると理解が得られやすい。簡潔であるということは、人の頭の中に無理なく、スイスイと入っていく分量（短く）　で話す、あるいわ書くことである。